

社会福祉法人梓友会 法人本部 平成26年度 事業報告

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

平成26年5月27日 第26-1回理事会・第26-1回評議員会

開催場所：下田東急ホテル会議室

出席：理事7名（うち1名書面出席）、監事1名、評議員13名

承認事項：社会福祉法人の定款変更届出について

平成25年度事業報告（全7拠点）

平成25年度決算報告（全7拠点）

就業規則の一部変更

平成26年10月8日 第26-2回理事会・第26-2回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名（うち2名書面出席）、監事1名、評議員11名

承認事項：特別養護老人ホーム梓の里厨房設備改修工事の入札について

平成26年12月18日 第26-3回理事会・第26-3回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名、監事2名、評議員14名

承認事項：平成26年度第一次補正予算（全7拠点）

平成27年3月11日 第26-4回理事会・第26-4回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名（うち1名書面出席）、監事2名、評議員13名

承認事項：会計方針の変更について

平成26年度第二次補正予算（全7拠点）

平成27年3月25日 第26-5回理事会・第26-5回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名（うち2名書面出席）、監事1名、評議員13名

承認事項：理事の選任

監事の選任

評議員の選任

第三者委員の選任

平成27年度事業計画（全7拠点）

平成27年度予算（全7拠点）

運営規程の一部改訂

給与規程の一部改訂

平成 27 年 3 月 25 日 第 26-6 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 7 名（うち 2 名書面出席）、監事 1 名

承認事項：理事長の選任

理事長の職務代理者の選任

2. ISOの推進

5/27～10/31 内部監査計画に基づき内部監査を実施

11/5～7 ISOサーベイランス審査（審査員：津島・桂田審査官）

11/26 JICQAにて登録維持確認（登録維持確認通知書受領）

有効期限：2016 年 3 月 3 日

3. 施設長会議

毎月上旬に開催（年間 12 回、四半期に 1 回課長補佐以上が出席）

議題 数値目標達成状況・運営状況報告（職員配置状況、利用者状況等）、評価・不適合報告、マネジメントレビュー指示事項対応状況報告、部門目標達成状況報告他
マネジメントレビューの実施（9月30日、3月30日）

4. 経営調整会議

毎月上旬に開催（年間 12 回）

議題 月次予算実績対比表の報告と分析（イワサキ経営鈴木先生同席）

5. 労使協議会の実施

5/29 第 1 回労使協議会 平成 26 年度夏季一時金、処遇改善交付加算金

10/23 第 2 回労使協議会 平成 26 年度冬季一時金、処遇改善交付加算金

3/9 第 3 回労使協議会 平成 27 年度定期昇給、平成 27 年度一時金
組合事務所について

6. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、日本経営者団体連盟・社会福祉懇談会研修委員会、
全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会・新進経営者会、
日本介護経営学会、日本老年社会学会、つしま医療福祉研究財団

7. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

6/11 総会・合同研修会

演 題：「これからの福祉と社会福祉法人の役割
～社会保障改革の動向を踏まえて～」

講 師：一般社団法人 医療介護福祉政策研究フォーラム
理事長 中村 秀一 氏

会 場：ホテル沼津キャッスル

参加者：130名

2/28 事務研修会

講 演：「平成27年4月介護報酬改定及び社会福祉法人の今後の経営戦略」

講 師：スターコンサルティンググループ 取締役部長 齋藤 直路 氏

参加者：91名

3/6 静岡県福祉職合同入職式

会 場：沼津リバーサイドホテル

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）31名

平成26年度 教育研修実績報告

H27.3.30

	内 容	詳 細
新任職員研修	① 新任職員オリエンテーション	3月16日～18日 (平成27年新卒入職予定者6名)
	② 新任職員技術研修	4月1日～5日 (平成26年新卒入職者7名)
	③ OJT教育	各所属施設にて (7名)
	④ 6期生フォローアップ研修(1ヵ月後)	5月22日(7名)
	6期生フォローアップ研修(3ヵ月後)	8月4日～5日(7名)
	6期生フォローアップ研修(半年後)	11月19日(6名)
5期生フォローアップ研修(2年目研修)	11月18日(5名)	
⑤ スキルチェック	各施設にて	
⑥ 法人オリエンテーション	第1回 5月16日(15名) 第2回 10月22日(8名)	
内部研修等	① 施設内研修(職員対象)	
	施設企画1 ●「平成26年度事業計画・職業倫理」 ●「平成26年度事業計画・法令遵守・介護保険について」 ●「平成26年度事業計画・倫理及び法令遵守」 「ご利用者のプライバシー保護」 「感染症・食中毒予防」「認知症ケアについて」 ●「平成26年度経営基本方針について・コンプライアンスについて」	梓の里 5月7日 みなとの園 4月24日 太陽の里 6月18日 みくらの里 5月29日
	施設企画2 ●「施設における高齢者虐待の現状と対応」 ●「リスクマネジメントについて」 ●「看取り介護」 ●「食中毒予防」「ユニットケアについて」	梓の里 8月7日 みなとの園 6月18日 太陽の里 10月29日 みくらの里 7月28日
施設企画3 ●「感染症予防・看取りのあり方について」 「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」 ●「感染症・食中毒について」 ●「身体拘束の予防」	梓の里 11月4日 みなとの園 7月25日 太陽の里 1月21日	

	<p>●「感染症予防対策について」</p> <p>みくらの里 11月21日</p> <p>本部企画1 「職場の健康管理とメンタルヘルス」 (ストレスケア) 4施設合同 9月30日</p> <p>本部企画2 「梓友会合同発表会」 4施設合同 3月25日</p>
	<p>② 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援</p> <p>講 座：8月31日 9月1日・6日・7日(計4日間)</p> <p>模 試：11月8日</p> <p>人 数：講義(12名)、模試(11名)</p> <p>実技模試：2月25日・26日(3名)</p>
	<p>③ プリセプター研修</p> <p>8月5日(火) 各施設8名</p>
	<p>④ 内定者フォローアップ研修</p> <p>11月29日～30日 (平成27年新卒入職予定者6名)</p>
委 託 事 業	<p>訪問介護員研修(静岡県委託事業)</p> <p>日 程：平成27年1月30日～31日 2月15日(3日間)</p> <p>受講生：18名受講(16名修了)</p>
体 験 実 習 受 け 入 れ 等	<p>【梓の里】</p> <p>① 稲生沢中学校 6月10日～11日 (2名)</p> <p>② // 10月16日 (49名)</p> <p>③ 下田中学校 6月12日～13日 (10名)</p> <p>④ 静岡県東部特別支援学校伊豆松崎分校 10月14日～16日(1名)</p> <p>⑤ // 11月17日～21日(1名)</p> <p>⑥ // 11月25日～28日(1名)</p> <p>⑦ // 1月7日～2月18日うち4日間(1名)</p>
	<p>【みなとの園】</p> <p>① 下田中学校 6月12日～13日 (6名)</p> <p>② 静岡県東部特別支援学校伊豆松崎分校 6月23日～7月4日(1名)</p> <p>③ イムス横浜国際看護専門学校 8月11日・19日 (1名)</p> <p>④ 下田高校南伊豆分校 11月11日～14日(1名)</p>

	<p>【太陽の里】</p> <p>①松崎高校</p>	<p>10月17日 (4名)</p>
	<p>【みくらの里】</p> <p>①南伊豆中学校</p> <p>②下田高校南伊豆分校</p> <p>③ //</p> <p>④下田中学校</p> <p>⑤稲取高校</p> <p>⑥下田市教育委員会</p> <p>⑦下田東中学校</p> <p>⑧下田高校</p>	<p>5月28日~30日 (1名)</p> <p>6月 2日~ 6日 (1名)</p> <p>11月11日~14日 (2名)</p> <p>6月12日~13日 (5名)</p> <p>12月9日~12日 (2名)</p> <p>9月 3日~ 4日 (4名)</p> <p>10月30日~31日 (6名)</p> <p>3月12日~13日 (2名)</p>
その他	出張勉強会（学校訪問）	<p>6月 3日 下田中学校3年（91名）</p> <p>6月10日 白浜小学校1・2年（31名）</p> <p>10月6日 稲生沢小学校2年（40名）</p> <p>10月7日 稲梓中学校2年（14名）</p> <p>10月14日 下田東中学校3年（40名）</p>
	<p>介護の魅力発見セミナー（学校訪問）</p> <p>就職ガイダンス</p>	<p>5月13日 下田高校南伊豆分校3年</p> <p>3月18日 下田高校南伊豆分校2年</p>

介護老人福祉施設 梓の里

平成26年度 事業報告

平成26年度事業計画	進捗状況								
<p>1. 地域包括ケアシステムの実現</p> <p>(1) 地域社会のニーズに対応する支援体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域の住民、ボランティア及び関係団体との連携を図り、高齢者を地域全体で支援する地域包括ケアシステム体制の推進を図る。 <p>具体的には、高齢者が住み慣れた地域で、本人らしく最後まで暮らし続けることができるよう、施設内に地域住民の集いの場を創設する。あわせて、日々の生活支援のための相談窓口を設け、必要な支援を提供する。</p> <p>(2) 地域との連携による社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域で暮らす高齢者に対する支援を通じて社会貢献を推進する。 <p>具体的には、単身高齢者の在宅訪問の実施、介護教室の開催、相談員便りの発行等を通じて、ソーシャルワーカーのアウトリーチを行い、地域社会への支援を図る。</p>	<p>梓の里は、公益性を持って様々な活動を行う中で地域貢献の取り組みを次のように実施。</p> <p>1. 具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域住民との防災訓練の実施 平成26年6月23日 参加者 10名（地域住民） • 加増野地区防災訓練 平成26年12月2日 職員参加2名 • 出張介護教室（下田市地域包括支援センターより依頼） 実施日 平成26年8月20日 参加者 35名 • いい日介護の日 横川住民との交流会 実施日 平成26年11月20日 参加者 28名 • 在宅生活者見守り訪問活動 （稲梓地区の高齢者、老夫婦世帯、障害者など包括支援センターやケアマネ等の対象から外れていて今後、支援が必要と思われる方を対象） <p>2. 地域との連携による取り組み</p> <p>近隣の民生委員との連携を図り「梓の里」として協力できないことがないか相談の機会を設け、10件の相談を受ける。</p> <p>その後、訪問活動を実施し、チェックシートを活用し、対象者本人および家族の困りごとへの解決のお手伝いの支援を実施。</p> <p>実績</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>通所介護、ホームヘルプサービス</td> <td style="text-align: right;">1件</td> </tr> <tr> <td>通所介護</td> <td style="text-align: right;">4件</td> </tr> <tr> <td>施設入所申込み支援</td> <td style="text-align: right;">2件</td> </tr> <tr> <td>訪問活動・安否確認</td> <td style="text-align: right;">2件</td> </tr> </table>	通所介護、ホームヘルプサービス	1件	通所介護	4件	施設入所申込み支援	2件	訪問活動・安否確認	2件
通所介護、ホームヘルプサービス	1件								
通所介護	4件								
施設入所申込み支援	2件								
訪問活動・安否確認	2件								

<p>2. 人材確保戦略のためのキャリアパスの充実</p> <p>(1)人材育成の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現任および新人職員の育成については、本部教育研修計画に即し、確実に実行する。 今後、医療連携や認知症への対応が必要となるため、たん吸引等研修（教育訓練給付制度指定講座）、認知症ケア専門士の資格取得の奨励を行う。 また、外部研修への積極的な参加と施設内研修、業種別による専門の勉強会を実施し、職員のキャリア・アップを支援する体制を構築する。 <p>(2)人材確保への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材を確保するため、職員の協力と地域ネットワーク（民生委員、ボランティア等）を活用し、人材の掘り起こしを図る。 また、幅広い方々に高齢者福祉への理解を深めていただくために、体験型の研修制度の充実を図り、地域の児童・生徒のボランティアを積極的に受け入れる。 <p>3. 財務力強化と外部委託利用の充実</p>	<p>3. 今後の課題</p> <p>本年度は加増野・横川地区での在宅者見守り訪問活動を実施した。その活動の中で、家族やご本人が困り事を相談できる場所が分からないケースが多いことが分かった。今回、実際に梓の里として関わりを持ったことにより、サービス利用に繋がり、対象者の生活に改善が図られた。</p> <p>また、地域には見守りを必要としている在宅高齢者が多く暮らしている状況が把握できた。</p> <p>今後、対象地区を拡大し、在宅高齢者の見守り活動を行うことが、梓の里としての地域貢献に繋げる事と思われる。</p> <p>人材育成の充実への研修（主な実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引研修 3名 静岡県社会福祉人事・労務管理者研修 1名 アカデミー接客マナー研修 1名 急変時対応セミナー1名 静岡県高齢者福祉研究大会 5名 介護技術コンテスト 4名 認知症介護実践研修 1名 横浜サービス協会職員研修 1名 地域包括ケア研究会 1名 地域リハビリテーションセミナー2名 静岡県キャラバンメイト養成研修 2名 地域保健医療福祉活動発表 2名 介護キャリア段位アセッサー講習 1名 国際福祉機器展等 2名参加 施設内研修に於いて 7回実施
---	--

<p>(1) 安定した施設経営の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した施設経営を行うため、各事業に対し、毎月の数値目標を設定し、稼働率管理を徹底する。 また、毎月の数値を各事業担当者に示し、改善が必要な事業に関しては速やかに対応策を図る。 その他、各種経費のコスト低減の実施、委託事業の分析・見直しを図る。 梓の里も創設から 25 年が経過しており、建物の修繕、設備の入替が喫緊の課題となっている。 したがって、今年度に於いては、長期修繕計画により厨房の床修繕、厨房機器の取替工事を実施し、建物の保全を図る。 	<p>各種軽費のコスト低減の実績</p> <p>長期修繕計画（空調設備の更新）の実施により、使用電力が大幅な削減となり、電気代の経費削減（前年度より 100 万円程度）が可能となった。</p>
--	--

介護老人福祉施設 みなとの園
平成26年度 事業進捗状況

平成 26 年度事業計画	進捗状況
<p>1.地域包括ケアシステムの実現</p> <p>(1)コンプライアンス遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的責任と事業継続の観点から、職員に対する倫理及び法令遵守の研修を実施するとともに、職員リーダー会議等を通して、事故防止、安全運転、感染症予防、防災活動の意識を高める。 <p>(2)地域貢献と認知症の生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 居宅部門の統合により、平成 25 年度末をもって在宅介護支援センターみなとの園が廃止となるが、平成 27 年 4 月を目処に、在宅に関する窓口となる「相談センター」の開設準備を行う。 <p>(3)医療連携による安全・安心の担保</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護と看護の連携はもとより、嘱託医、産業医、歯科医、PT 等、みなとの園に関わる医療系の人たちとの連携を強化し、医療面での安心・安全の充実を図る。 <p>(4)市民協働の地域包括ケアシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問介護、デイサービス、短期入所、委託事業（健脚教室、配食等）の横の繋がりを強化し、さらには居宅支援事業所、地域包括支援センター等と協働し、南伊豆における地域 包括ケアシステムの構築を推進する。 <p>2.人材確保戦略のためのキャリアパスの充実</p> <p>(1)働きやすい環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生委員会の充実・面談等による、メンタルヘルスクエア対策の実施、ボランティア（有償を含む）の活用、計画的な修繕（開設 15 年目の施設のため）や計画的な備品の買替えを行うことにより、働きやすい職場環境を整備する。 <p>(2)キャリアパスの明示</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスの一環として、たん吸引等 50 時間研修、認知症サポーター、認知症ケア専門士等、資格者養成の支援を積極 	<p>以下の通りコンプライアンス及び介護保険に関する施設内研修を実施した。</p> <p>開催日：4 月 24 日（木）19 時～20 時 講師：松田施設長、原田課長 参加者：33 名</p> <p>尚、参加できなかった職員に対しては、資料を配布し、研修報告書の提出を義務付けた。</p> <p>相談の部門目標に設定し進捗を図った。</p> <p>11 月 11 日の介護の日にマックバリュ下賀茂店前の駐車場にてチラシを配布するなどして PR を行い、2 月 25 日の準備委員会にて来年度以降の活動内容及び担当者を決定した。</p> <p>毎月の衛生委員会における産業医の施設巡視等からの改善提案により、2 階浴室の改修工事やセンサー式手洗い器設置等が具体化した。</p> <p>また、他施設との看護師交流会によって看護の連携強化が図られた。</p> <p>7 月 11 日 18 時から講師に南伊豆町地域包括支援センター鈴木康子主任を迎え、みなとの園にてデイサービス職員を中心に勉強会を実施した。その中で、南伊豆町の現状を話してもらい、地域福祉の理解を深めた。</p> <p>衛生委員会の活動により、平成 27 年度に向けて 3 階浴室の改修工事（大浴場を埋め、リフト付き浴槽を設置）を実施し、利用者の安全を確保するとともに職員の腰痛防止を図る目標を立てた。</p> <p>また、パンの日やシーツ交換等、多数のボランティアの協力を得ることができた。</p> <p>資格養成支援の結果、以下資格者が増加</p>

<p>的に行う。</p> <p>(3)介護の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 県高齢者福祉研究大会や施設内研修における研究発表を通して、介護の質の向上と充実を図るとともに、OJT や勉強会を通して介護技術の向上を目指す。 <p>3.経営分析による財務強化の実施</p> <p>(1)計数管理</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス拠点区分毎に数値目標を設定し、安定した稼働率の確保を目指すとともに、部門間の連携を強化し、特養の短期転床など、数値目標を意識したベッドコントロールを行う。 <p>(2)法人財務の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年 4 月からの消費税アップ(5%→8%)の対応として、備品購入、水道光熱費、業務委託費等の見直しを行い、対前年比5%の経費節減を図る。 	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> たん吸引等 50 時間研修：3 名 認知症ケア専門士：2 名 介護福祉士：2 名 <p>その他、外部研修等に参加することで、職員の質の向上を図ることができた。</p> <p>平成 26 年 8 月 8 日(金)に沼津のプラザヴェルデで開催された静岡県高齢者福祉研究大会に参加し、「個浴への取り組み(抱えない移乗法での入浴介助マニュアルの作成、マンツーマン入浴の確立)」というテーマで研究発表を行った。</p> <p>また、平成 27 年度は、看護と栄養部門の協働にて、「褥瘡とOHスケール」をテーマにした研究発表の準備を進めている。</p> <p>毎月、各部署の実績を取りまとめ、施設長会議で報告しているが、平成 25 年度(年間)の実績は以下の通り。</p> <p>特養：目標稼働率 99.0%→結果 97.9%</p> <p>短期：目標稼働率 95.0%→結果 91.1%</p> <p>通所：目標利用者 450 名/月→412 名/月</p> <p>訪問：目標 200 万円/月→結果 207 万円/月</p> <p>平成 25 年下期～平成 26 年 9 月まで退所者が多く、短期利用者が特養に入所、デイ利用者が短期に移行という流れがあり、特養・短期・通所とも目標未達となった。</p> <p>特養については、入所までの期間短縮により、平成 25 年度の 96.2%から 1.7 ポイント回復したが、その分短期(△1.1 ポイント)とデイ(△21 名/月)が苦戦した。</p> <p>また、2 月 27 日に感染性胃腸炎の集団発生があり、17 名(利用者 10 名、職員 7 名)が罹患したことも影響した。</p> <p>平成 26 年度の事業費と事務費の合計(修繕費を除く)は、対前年比 99.8%となり、△0.02%の経費節減という結果となった。</p> <p>水道光熱費の使用量は、対前年比で 96.8%(電気 96.8%、ガス 99.3%、上下水道 95.8%)に抑えられたが、単価アッ</p>
---	--

	<p>プの影響を吸収しきれず、支払金額は対前年比 101.2%となった。</p> <p>消耗品費（備品購入）は対前年比 92.5%であり、△7.5%の経費節減ができ、目標を達成した。</p>
--	---

平成26年度 太陽の里 施設サービス基本方針 進捗状況

平成26年度事業計画	進捗状況
<p>1. 地域包括ケアシステムの実現</p> <p>(1)地域の生活に安心・安全を与え、有効性のある社会資源として、その公益性を担保する</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員、老人クラブ、ボランティアと交流会を行い、地域の社会資源である事の理解を深めていただく 生活相談員は地域の専門職者と連携を図り、法人の事業内容や介護サービスの質等の情報提供を行うとともに、地域のニーズ把握を行う <p>(2)地域社会で、その人らしい生活の継続を支えていく</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期・通所サービスを利用する中で、医療面での情報を正確に把握し、安全安心なサービス提供の実現を図る。 在宅生活継続のため、機能訓練等を介護サービス計画上で立案し、介護予防を推進する。 配食サービス提供時には、ご利用者の安否確認を行い町への情報提供に努め、安全安心の確保を図る。 松崎・西伊豆地区の在宅医療の推進のため「在宅医療連携拠点事業推進協議会」の委員として、事業推進に取り組む。 <p>2. 人材確保戦略のためのキャリアパスの充実</p> <p>(1)職業能力評価にキャリア段位制度という共通のものさしを導入し、人材育成を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職としての自信のあるケア提供を目指し、職員の資質向上のため、アセッサー（評価者）を職員の中から選出し、アセッサー（評価者）養成講習を受講する。 アセッサー（評価者）は業務を通じて職員のスキルを評価する。それにより、職員は自分自身の介護技術の習熟度を確認し、キャリアパスの実現を目指すしていく。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特養ではボランティア交流会を1回実施。通所では仁科地区、田子地区の老人クラブとの交流会を2回実施。その中で施設役割の説明、介護保険制度等に関する質疑等を実施。施設及び、老人クラブ、ボランティアも地域の社会資源である事の共通認識を深める事となった。 特養、通所の相談員は、賀茂健康福祉センター、西伊豆町包括支援センター、事業所連絡会主催の会議に出席すると共に、居宅ケアマネとの連携強化を意識して地域ニーズの把握を行った事で、認知症・独居ご利用者のサービス利用につながり、介護予防または安全な生活の支援となっている。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部門でサービスを利用する際は、ご利用者のアセスメントを実施。課題・ニーズの抽出を行い、在宅生活維持を目標に介護予防のための介護の提供や認知症のご利用者の安否確認等を積極的に実施した。スタッフは介護計画作成に関しての能力も向上しており、町、居宅事業所からも高評価となった。 「在宅医療連携拠点事業推進協議会」の委員として、会議へ6回出席。今後、医療介護体制の構築・多職種連携の在り方、利用者情報の共有の方法等が課題となっている。 <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、アセッサー（評価者）養成講習を受講するまでには至らなかったが、今後、本部と協議し受講計画をしていくこととする。

3. 経営分析による財務強化の実施

- (1) 月次数値目標の進捗管理、光熱水費および消耗品の経費節減の取組み
- 各事業に対して毎月の数値目標を設定し、月次での進捗管理を行い、法人の財務力強化に寄与する。
 - 施設内での消耗品の使用状況を把握・分析し、また、節電の取組みを進めることにより、前年対比 5%の経費節減を目指す。

(1)

- 各部門と会議を重ね、部門責任者を中心に全スタッフで経費削減の取組みを行った。その結果、光熱費（電気代）については全スタッフが個々に意識し声掛けや見回りをする事が出来、経費削減に繋がったと評価できる。

使用料

25年度	261,472kwh	
26年度	239,097kwh	<u>-22,375 kwh</u>

金額

25年度	5,352,225 円	
26年度	5,359,387 円	<u>+7,162 円</u>

電気料金の値上げや消費税増税により、金額は+となったもの、使用料は-とすることが出来た。

また、オムツ使用量については、在庫管理不足による重複注文等が反省点としてあげられたが、個別ケアを意識し見直しを重ねた結果、経費削減を達成することが出来た。

25年度	4,205,630 円	
26年度	3,420,490 円	<u>-785,140 円</u>

4. ご利用者の 安全・安心の確保

- (1) 非常災害対策の実施
- 第4次地震被害想定(レベル2)を想定した具体的計画(マニュアル)の作成を推進する。
 - 太陽の里は海拔2.5メートルに位置している事から津波による救出訓練を定期的実施することで日頃から職員のとるべき行動が身につくようにする。
 - ふじのくに防災士の資格取得を推進し、地域の防災リーダーとして、ご利用者と地域住民の安全確保に努め、地域貢献を図る。

(1)

- マニュアル作成においては、各施設の防火管理者で検討を行ったが年度内での作成まで至らなかったため、継続的に検討していくこととする。
- 地震・津波を想定した避難訓練を4月・9月・1月の3回実施。今後も継続的に実施する事を位置づけていく
- 今年度はふじのくに防災士の資格取得のための講習を受講するまでは至らなかった。今後、継続的に検討することとする。

(2) ご利用者およびご家族の安心・安全を確保するため、介護事故予防の推進

- 個別ケアを推進する中で、過去の事例を再検証する等業務の見直しを進め、事故予防に努める。

(2)

- 特養においては、平成25年度に発生した誤嚥事故を教訓に、相談・介護・栄養の3部門で誤嚥による事故発生予防を部門目標に掲げた。そのことにより、スタッフ間で知識・意識が高まり、事故予防につながったと評価できる。また、通所については見守り

	<p>不足による転倒が散発したことを受け、見守り体制の見直しを検討。その結果、見守りの意味の再認識、スタッフ同士の声掛けの必要性の再認識も出来、転倒予防につながった。</p>
--	---

介護老人福祉施設みくらの里 平成 26 年度 事業進捗状況

平成 26 年度事業計画	進捗状況
<p>1. 地域包括ケアシステムの実現</p> <p>①地域密着型サービスとの連携による地域包括ケアの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに開設される小規模多機能型居宅介護みくらの里と連携することにより、下田地区での地域包括ケアシステムを構築する。あわせて、地域ボランティアとのネットワークづくりを推進する。 <p>②地域の在宅医療等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 3 次地域医療再生計画に位置づけられた、在宅医療連携拠点事業における「在宅医療」との連携を図るため、モデル事業に参加する。あわせて、他の医療機関や福祉施設との地域ネットワーク作りを推進する。 <p>③認知症ケアの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後増えていく認知症の高齢者を地域で支えるために、地元行政や地域住民との連携をさらに深め、認知症啓発事業を展開する。具体的な取り組みとして、下田市の委託事業である認知症施策総合推進事業等を展開する。 <p>2. 人材確保戦略のためのキャリアパスの充実</p> <p>①介護プロフェッショナルキャリア段位制度を活用した教育研修制度の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 内閣府が進めていた実践的な職業能力の評価・認定制度である「キャリア段位制度」におけるアセッサー（評価者）を養成し、施設内での教育研修制度（OJT）の充実を図る。 <p>(2) メンタルヘルスの取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能型居宅介護と連携し定期開催（年 6 回）した。また、下田市のモデル事業である食料品アクセス対策協議会に参加するなど、地域の様々な高齢者ニーズに対応するための取り組みを実施した。 下田、南伊豆地区の在宅医療介護連携推進協議会に参加（合計 4 回）した。あわせて、地域の福祉施設で働く看護職の連携を深めるために、情報交換会を主催し、今後のネットワーク化に向けた取り組みを行った。 下田市との委託事業は実施されなかったが、以下のような各種の取り組みにより認知症の高齢者を地域で支えるために各種関係機関との連携を図った。 <ul style="list-style-type: none"> 下田市社会福祉協議会主催の研修会への講師派遣 各種学校への出張勉強会の実施 介護の日啓発事業として、介護予防教室の開催 平成 26 年度はみくらの里から 1 名をアセッサー研修に参加させ、アセッサーとして養成した。あわせて、現在の OJT 制度をより有効なものとするために、アセッサーによるキャリア段位制度の活用を検討した。（本内容については、次年度の継続的な取り組みとして実施中） 年 2 回の人事考課時の面談などを通して、職員のメ

<p>・職場内でのメンタルヘルス対策を充実させることにより、メンタル不全の予防や早期発見につなげる。具体的な取り組みとしては、定期的な職員との面接や研修会等の実施、あわせて専門医との連携を図る。</p> <p>(3) 魅力ある職場からの情報発信</p> <p>・施設での様々な取り組みなどを地域に情報発信し、介護の現場の正しい理解の促進を図る。具体的には、広報誌の定期発行、各種メディアを通じた情報発信、および地域への出張勉強会などを実施する。</p> <p>3. 経営分析による財務強化の実施</p> <p>①経費節減の取り組み</p> <p>・経費削減及び予算執行状況を月次で進捗管理し、施設全体の取り組みを周知徹底し、法人財務の強化に寄与する。</p> <p>②デイサービスセンターみくらの里の機能強化の検討</p> <p>・地域のニーズ及び次期介護報酬改定を見据え、実施規模の適正化や機能強化を検討する。また、提供するプログラムを再検証し、科学的な根拠に基づいたプログラムのあり方を検討する。</p> <p>③居宅介護支援事業所の統合による業務効率化及び新たな加算の取得</p> <p>・事業所統合の意義および役割を地域に向けて再度周知する。また、ケアプラン件数の適正化を進め、主任ケアマネジャーの配置を行い、特定事業所加算取得を推進する。</p>	<p>ンタル不全の早期発見に努めた。また、メンタルチェックのアンケートを実施した。あわせて、必要に応じ専門医との面談などを実施した。</p> <p>・年4回のみくらの里広報誌の発を行い、定期的な情報を行った。また、各種事業（ショートステイ、デイサービス、ケアプランセンター）においても広報誌等を発行し、幅広く介護の現場の情報を発信することに努めた。</p> <p>・施設全体で月次での電気使用量や削減目標達成の取り組みを情報共有することにより、対前年比▲8.5%（約150万円）の成果を出すことが出来た。</p> <p>・今後、増加する高齢者の健康維持のニーズに対応するために、機能回復や維持を目的としたメニューを新たに提供した。 また、更なる地域ニーズに対応するために、土曜日営業のための準備を進めた。 （新年度より土曜日営業を開始済み）</p> <p>・3つの事業所にて独立運営していた居宅介護支援事業所を1箇所に統合し、サービスの質の向上、業務効率化、および経費削減の取り組みを行った。 あわせて、主任ケアマネジャーを新たに養成し、平成27年2月より特定事業所加算の新規取得を開始した。</p>
---	--

--	--

小規模多機能型居宅介護 みくらの里

平成26年度 事業報告

平成26年度事業計画	進捗状況
<p>1.地域包括ケアシステムの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントを行う。 ・地域に密着し地域に開かれた事業にするために、利用者、利用者家族、地域住民の代表者、地域包括支援センターとの積極的な連携を図る。また、事業所からの情報提供だけでなく、地域で見守りを必要としている方の情報を得る機会として運営推進会議を開催する。 ・地域の社会資源として、ケアサービスの質の向上を目指して、地域のボランティア団体との交流会を行う。 <p>2.人材確保戦略のためのキャリアパスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定地域密着型サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、虐待の防止の徹底、身体拘束をしないケアの実践と権利擁護に関する制度を理解し、個々の必要性を関係者と話し合い、制度を活用できるように研修会を開催する。 ・職員を育てる取組みとして、職員一人一人の力量に応じた法人内外の研修を受ける機会を確保し、OJTを有効に機能させていく。 <p>3.経営分析による財務強化の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズを把握し、事業所の数値目標としての登録人数、利用者延べ人数を達成することにより、安定的経営に貢献する。 また、市町、居宅介護支援事業所と連絡を密にし、サービスの提供状況を積極的 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定居宅介護支援の具体的取扱方針（指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準第13条第1項第6号/第7号）により課題分析、計画の作成を行った。 ・地域住民の代表者として吉佐美区長、吉佐美・大賀茂地区民生委員、市町村の職員として下田市市民保健課係長、ボランティアとして大賀茂ほたる便代表、知見有する者として元福祉事務所長等を運営推進委員として委嘱し、年6回、運営推進会議を開催した。 ・地域交流年間計画を作成し、下田市女性の会等の協力により6月28日「フラワーアレンジメント教室」、7月11日「ふれあいサロン」などの交流行事を実施した。 ・平成26年度高齢者権利擁護等推進「身体拘束廃止フォーラム」に職員1名を参加させ、後日、その内容の伝達を職員会議で実施した。 ・平成26年度小規模多機能型居宅介護みくらの里研修計画に基づき外部研修15回、内部研修5回に各職員を受講させ資質の向上を図った。 ・数値目標としては、利用登録者数の前期稼働率50%、後期稼働率90%、平均介護度3.0以上に対して、実績は、前期稼働率66.7%、後期稼働率は84.7%、平均介護度は2.23という結果となった。また、居宅介護支援事業所の連絡は、年間10回、病院との連絡は年間21回という結果であり、今後も引き続き連携をしていく。

に

伝えながら、協力関係を築いていく。